

2008年度 第3回 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<確定稿>

- 開催日時：2008年6月10日（火） 午後7時15分～9時00分
- 開催場所：田無総合福祉センター 第3会議室
- 出席委員：飯塚 睦、熊田博喜、坂口和隆、瀧島喜重、安岡厚子
柳澤正樹、山下恭子、渡辺美恵<以上8名、敬称略、あいうえお順>
- 欠席委員：阿部靖子、中曾根聡<以上2名、敬称略、あいうえお順>
- 事務局：丸木 敦（地域福祉課長）、中澤一郎（主事）、今林朝香（コーディネーター）
長山清美（コーディネーター）篠原保之（係長）

■配布資料

- 資料 1：西東京ボランティア・市民活動センター事業月次報告（5月）
- 資料 2：コーディネート状況等月次報告（5月）
- 資料 3：西東京ボランティア・市民活動センター予定表（6月）
- 資料 4：2008年度第2回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<未定稿>
- 資料 5：西東京ボランティア・市民活動センターアクションプラン（案）
- 資料別紙：2008年度第1回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<確定稿>

開会の挨拶

委員長：定刻なので始めたいと思います。本日は、議題が少ないようなので、西東京市協働推進検討委員会の報告とアクションプランの検討に時間を費やしたいと思います。早速、報告事項から始めてください。

1. 報 告 事 項

(1).西東京ボランティア・市民活動センター業務報告

- ① 西東京ボランティア・市民活動センター事業月次報告（5月）
事務局より報告。
- ② コーディネート状況等月次報告(5月)
依頼の内容や新規登録者の紹介、NPOからの相談内容などを事務局より報告。
- ③ 西東京ボランティア・市民活動センター予定表(6月)
事務局より報告。

質問等なく、報告を終える。

(2).理事会報告

委員長より5月28日（水）に開催された理事会の報告が行われる。西東京ボランティア・市民活動センターに関する事案はなく、19年度活動報告、決算報告などがされた旨の説明がある。

質問はなく、報告を終える。

(3).西東京市協働推進検討委員会報告

委員長より、5月29日(木)18:30 イングビル3F会議室で行われた西東京市協働推進検討委員会の報告が行われる。

委員長：委員は10名。うち公募委員は3名。当運営委員会からは2名が参加。どちらも運営委員会としての選出区分ではなく、NPO法人関係者としての参加。座長は東京ボランティア・市民活動センターの安藤副所長。当日は、顔合わせと自己紹介、センター予定地の見学(イングビル1F)を行なう。国の補助金を使い、内装工事を行なう。国の補助金は、まちづくり事業の補助金。初回(5/29)に内装・備品・レイアウトについて事務局案を承認してほしいとの提案がある。機能面の討議が先ではないかとの意見もあるが、国の補助金を申請するため、申請書記載内容については、初回の決定が必要だったと思われる。申請後の若干の内容変更は可能ではないかと思う。全体的には行政側の主導のように思われる。全委員とも発言が活発に行なわれた。手順についても後ろ倒しにしていくことが話されている。また、委員長からは、他市の事例を見ることが提案される。6月18日(水)に武蔵野・三鷹・調布の視察が行なわれる。

レイアウトについては、備品との絡みや機能面でのことに話が及んでいたが「印刷機がうるさい」「間仕切りがない」などの提言もされた。本格的な機能面・運営面の話には至っていない。今後は西東京ボランティア・市民活動センターのことも話していくと思う。センター職員も傍聴していたようなので感想があったら話してほしい。

事務局：行政主導で進められていくような感じがした。座長が委員会中心に進ようと苦労していたようだった。

委員：会合が5回しか予定されていない。

委員長：市長の肝いりで進められた事業である。かなりの部分が動かせない状態なのではないか。場所については暗さを感じた。すぐ向かいに多文化共生国際交流センターが、隣に創業支援の事務所がある。連携を考えても良いのではないかと思う。

委員：他市の視察が3箇所とのことだが、3市を選んだ根拠はなにか。

委員長：すでにできていて、協働推進センターとしての活動が活発なことで選ばれたと思う。調布が社協運営、他はNPO運営である。備品以外のところをしっかりと見てほしい。

委員長：地域福祉計画策定委員会も進められていると思うが、状況はどのようなものか。

委員：5月27日に会議があった。こちらも自己紹介から始まり、進められた。市民意識調査を行なうことが決まっている。コンサルタントが出してきた内容を見ていった。かなりタイトな日程で間に合うのかなといった感じがした。福祉の様々な計画の中では最上位計画となっている。

委員長：テーマの中に、市民活動支援については枝にはいつているのか。

事務局：これからの運営方法について、ニーズ把握のための市民の意識調査を行なうこと、生活圏域ごとの話し合い、当事者ヒアリングなどがあげられている。社協の地域福祉活動計画とリンクさせて考えていくことになる。

委員長：ニーズがあるから事業がある。しっかりニーズを押さえてもらいたい。様々な調査が行な

われると思うが、各々の取ったデータを共有していくことが必要。市民意識調査は共同で行なうことも考えてもらいたい。対応できる事業がない場合は、新たな事業を起こすことも課題となると思う。

質疑を終了し、報告を終える。

(4). TBS の依頼のその後について

委員長：先月取材の申し込みがあった TBS の依頼について、その後新しい動きがあったか。

事務局：1名の登録ボランティアさんが取材に応じて良いとのこと TBS の方にお伝えしたが「上司に話してみます。時間をください」とのことだった。また、武蔵野大学の学生さんが協力してもらえるとのお話をいただいている。

委員長：皆さんもお知り合いの方がいたら、事務局に連絡してほしい。

委員：前回の話では焦点がわからず、理解できなかった。

事務局：委員の皆さん方に取材とのことでしたが、何で来たのかわからなかった。

委員：学生とテレビ局の思惑が合致すれば面白いと思う。

委員長：また、新しい展開があったら教えてほしい。

以上で経過報告を終える。

2. 審 議 事 項

(1).2008 年度第 2 回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録(未定稿)について

○2008 年度第 2 回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録の確認を行う。

委員長より訂正などの意見があるか確認が行われる。

●訂正箇所 6 ページ 7 行目「確認を行なわれる」を「確認が行なわれる」に訂正

全体として、改行の部分がずれているところは訂正するように指摘がある。

また、委員から「毎回、細かい報告で大変だと思う。話した内容の要点のみを記載しても良いのではないか」との意見を頂く。「内容について間違いがなければ、多少の言い回しが変わっていても問題はない」との見解があった。事務局で今回のご意見を元に、今後の議事録作成を行なうことを返答する。

以上をもって、訂正・質疑等を終え、2008 年度第 2 回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録(未定稿)を(確定稿)とすることを承認する。

3. 協 議 事 項

(1). 西東京ボランティア・市民活動センター 3 カ年アクションプランについて

事務局より、今回提示の資料 5 について説明を行う。委員からの質問、意見をいただく。
以下、質問内容、回答、意見、問題提起について、概略を表記する。

委員：(多様なコーディネート) のところで団体が NPO 法人と限定されているが、これは理由があるのか。

事務局：NPO との表記はあるが、NPO を含めた市民活動団体全般を意識して表記した。取りかかるところで、活動を進めている NPO からスタートしたい意向はある。

委員：協働推進センター(仮称)が 2009 年にスタートする。その中でこのセンターが関わる状況をつくりたいのと思う。そういう中で多様なコーディネートは何より大切なものと思うが、2008 年中にしっかりしたものをつくらないと計画としては弱いと思う。2008 年中の基盤整備が急務。この計画ではのんびりしすぎている。

委員：ニーズがあつての活動計画。やはり、「2 年かけてアンケート実施を」では遅すぎる。市内の調査などはアンケートと訪問を一緒にして、どういうニーズがあるのかを捕らえていなくてはいけない。NPO は動きが早い。今年のニーズと来年のニーズは同じではない。社会情勢も変わる。その対応も新しいセンターには求められる。アピールをしておかないと弱いと思う。

委員：定年退職者については、年金の問題もあり、すぐにボランティアとしてデビューできる人ばかりではない。ボランティア活動を求めても 65 歳からが現実。まだまだ働く気持ちが強い。コミュニティビジネスや NPO で働きながらボランティア精神を培ってもらっても良いのではないか。

委員長：定年退職者を新現役と名づけているところがある。団塊世代はまだ働いている。地域デビューするより、会社で嘱託職員として残って仕事をしている。ピークはこれから。マーケットとしても、まだ表に出てきていないことを踏まえて準備すべき。

委員：人材バンクについて、紹介は福祉が多いと思う。センターに来たら何かつながりができるよといったアピールはできないものか。バンクという溜めこむイメージがある。ネーミングを考えてはどうか。意識も変わってくるかもしれない。他市では何かないのか。

委員：いつくらいまでにまとめなければいけないと考えているか。

事務局：社協の地域福祉活動計画との兼ね合いで 8 月末までには方針を固めたいと思っている。

委員：だとすると事務局の提案もピッチを上げなければいけない。

委員長：この課題に対してこんな解決ができたらという視点でまとめてほしい。

委員：企業への取り組みについて、何のためにそれをやるのか、何のために必要なかを打ち出すこと。他の項目との連携も示してほしい。1 つの取り組みに 1 つのシートくらいのものであっても良いと思う。

委員長：企業の CSR について、千代田の例も出たが、そもそも西東京には大企業がなく同じことはできない。企業も支店レベルでは活動に限りがある。

委員：情報のコーディネーターについて。運営委員会との関わりも出たが、活動のエリアや得意分野が違っている。生活者としての情報収集ができる方とあわせて運営委員会委員も動くのであれば理解はできる。

委員：ブロック毎に担当を決めて情報を集めるのも良いと思う。

事務局：ボランティア登録の人にも地域情報を集めてもらうことを考えたい。将来的には地域の人たちにも関わってもらいたい。

委員：アドボカシー機能について、センターとしての当事者性を出しても良いのではないかと。事務局としての社会に対する考え方をコーディネーターとして中間支援組織当事者の声の前面に出しても良いのではないかと。

委員：参画という表記は意味があるのか。

委員：以前に参加か参画かでの議論があった。参加とはただ参加しているだけで参画とは主体的に関わっているとの考え方もある。

委員：新たなチャレンジについて、あえて「市民参加の」と謳っているのだから市民参画という項目は要らないのではないかと。

委員：大学との協働ではなく、大学生との協働にシフトしては市民参加にならない。

委員：商店街の活性化という項目が入っていない。4月に話し合った中では議題に上がっていたはず。

委員：ニーズに対してどんどん仕事の中身を変えていく。それをサポートして、地域ニーズに即して1つの課題に対して異種異分野の人たちが動いてビジネスを展開していく、そのサポートやファシリテートしていくことができたと思う。

委員：事前準備はいろいろある。実現の可能性を求めて進めてほしいが、どれだけできるのか。出されている内容を全てこなすとすると、相当の職員が必要ではないかと。

委員：自治会再生プロジェクト、コミュニティ再生の項目が入っていない。ぜひ考えてほしい。

委員：講座に偏りすぎないところが出されている。ソーシャルワーク的なところに向かっていることは評価できるのではないかと。

委員：調査が3つ提案されている。ボランティア・市民活動センターが存在価値を高めるための取り組みを考えてほしい。

委員：年代的なターゲットは絞っているか。

事務局：あえて絞っていない。

委員：その視点は深めてほしい。

委員：強化プランの4項目にこだわっているとこの形の提案になってしまう。ボランティア・市民活動センターの職員として何をやりたいのか、市民に対してどういうサービスを行なったら良いのか、こうあるべきから入らないでほしい。関わっていること、それがまさにニーズであると思う。そこから最重要課題を探しても良いのではないかと。

委員：中間支援センターとして、業務を担っていくために、市民活動団体と企業と市民とのつながり、それぞれの思いを胸にコーディネートしていかなくてはいけない。

委員：グループに所属している日本語ボランティアがボランティア・市民活動センターを知らない。市民と市民活動団体をつなげる講座の持っていきかたも考えてほしい。

委員：様々な立場の人がいるので、いろいろな観点で考えてほしい。

委員：運営委員会として、前回までの地域福祉活動計画を見直すことも必要なのかもしれない。

委員長：今日は時間もきてしまったので、事務局は大変とは思いますが、また素案を考えて直してほしい。その上で議論をしていきたい。

今回の協議を踏まえて、事務局より、あらたにアクションプランを出していくこととなる。

3. そ の 他

(1).次回運営委員会開催日程について

次回の運営委員会の確認を行う。

日時 7月8日（火） 19:15～21:00

会場：田無総合福祉センター 第3会議室

以上をもって、2008年度第3回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会の審議を終了し散会する。